

人文科学研究科 文化基礎論専攻 哲学分野 博士学位論文審査基準

- 1 研究テーマが明確である。
- 2 先行研究が十分に検討され、テーマ設定に至るプロセスが示されている。
- 3 論文で用いる方法論が具体的に提示されている。
- 4 研究の素材となる文献、史資料、調査結果などが十分に吟味されている。
- 5 結論に至る議論の展開が十分な論拠に支えられ、論理的である。
- 6 当該分野の学術研究の進展に貢献する、独創性を備えた研究である。
- 7 研究計画の立案および遂行、研究成果の発表ならびにデータの保管に関して、適切な倫理的配慮がなされていること。(データ改竄、捏造、剽窃などの研究不正を行っていないこと)。

人文科学研究科 文化基礎論専攻 哲学分野 博士学位授与プロセス

1. 博士論文提出にあたっては、あらかじめ定められた期限までに博士論文作成計画書を提出し、審査の上、提出予備資格を取得すること。
2. 博士論文提出予備資格を取得するためには、以下の条件が満たされていることが求められる。
 - ①全国学会誌（またはそれに準ずる学術雑誌）に査読付き論文が1本以上掲載されていること（あるいは掲載予定であることが当該機関によって正式に認められていること）。
 - ②博士論文作成計画書に示された研究題目、研究内容、研究の進捗状況、研究の進め方、今後の見通し等から見て、博士論文として十分完成が見込まれること。
3. 博士論文提出予備資格を得た者には、指導教員を含む2～3名の教員から構成される博士論文指導委員会が組織される。論文提出者はこの委員会の指導の下、論文を作成する。